巻・頭・言

ウィズコロナのコミュニケーション

令和３年度特許庁技術懇話会 代表幹事　佐藤 久則

令和３年度 特技懇常任委員会 代表幹事を務めております佐藤久則と申します。関係各位の皆さま、特に特技懇正会員・特別会員の皆さまには、平素より特技懇の活動や運営にご協力いただき、大変ありがたく存じます。この場を借りて改めて御礼申し上げます。

令和３年度も下半期となり、小職の任期も折り返し地点を過ぎたところです。この半年間に様々なことがありましたが、やはり印象的だったのは新型コロナウイルスのことです。東京都について言えば、今年度上半期の183日のうち、実に138日が緊急事態宣言下、34日が蔓延防止等重点措置にあり、平時であったのは11日間でした。私たちの日常生活は長く不自由なものとなっており、登庁日数は限られ、会議や打ち合わせはオンラインとなり、歓送迎会や親睦会は一年半も開くことができずにいます。特技懇としても、昨年度に引き続き、今年度も懇親会を断念せざるを得ませんでした。特技懇の目的の一つは、会員相互の親睦です。懇親会はそれを象徴するものであり、このような大事な催しを中止することにより、見えないところで損なわれているものがあるように思われてなりません。

職場での日々のコミュニケーションも、以前のように活発に行うことは難しくなっています。私たち審査官・審判官の業務は、全体的には個人プレーの性質が強いものではありますが、それでも、合議は言うまでもなく、日常的な雑談のなかにもヒントや気付きがあり、それが仕事の品質に結びついていたことが、今更ながら懐かしく思い出されます。もちろんメールやスカイプ等の連絡手段で情報伝達不足がないようには気を付けていますが、紙の辞書の長所が「寄り道」であるように、対面の雑談にも「寄り道」の効果があり、それをどのようにすれば補うことができるのか、手探りの状況が続いています。

折しもこの巻頭言を執筆している十月初旬、東京都の新規感染者数は11ヶ月振りに100人を下回り、ワクチン接種者も日本総人口の七割を超えました。緊急事態宣言が明けて、街は賑わいを取り戻し始め、航空券の予約は10倍になったとの報道もあります。対面であれオンラインであれ、人と人との繋がりは得難いものです。以前のようには戻らないのかもしれませんが、またお互いに気安く言葉をかけあい、親睦や交流を持てる世の中になって欲しいと思っております。

特技懇常任委員会としても、今年度の下半期には、座談会や意見交換会といった企画について検討しております。会員相互の親睦がよりいっそうなされるよう、そしてその一助となることができるよう、業務を全うして参りますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。